



2025年2月16～20日に釧路水産試験場試験調査船「北辰丸」で実施した噴火湾周辺海域の水温・塩分の観測結果をお知らせします。 QRコードからもアクセスできます→

- ・親潮系水が流入しておらず，水温は例年よりも高い
- ・現在，餌は例年より多く，養殖ホタテの成長・成熟が進む見込み

【水温の鉛直分布】

噴火湾内の水温はおおむね海面から海底まで5℃前後（平年+1℃），湾奥の水深70m以深では6℃台（平年+2℃）。湾外は6℃台（平年+2～3℃）となっています。

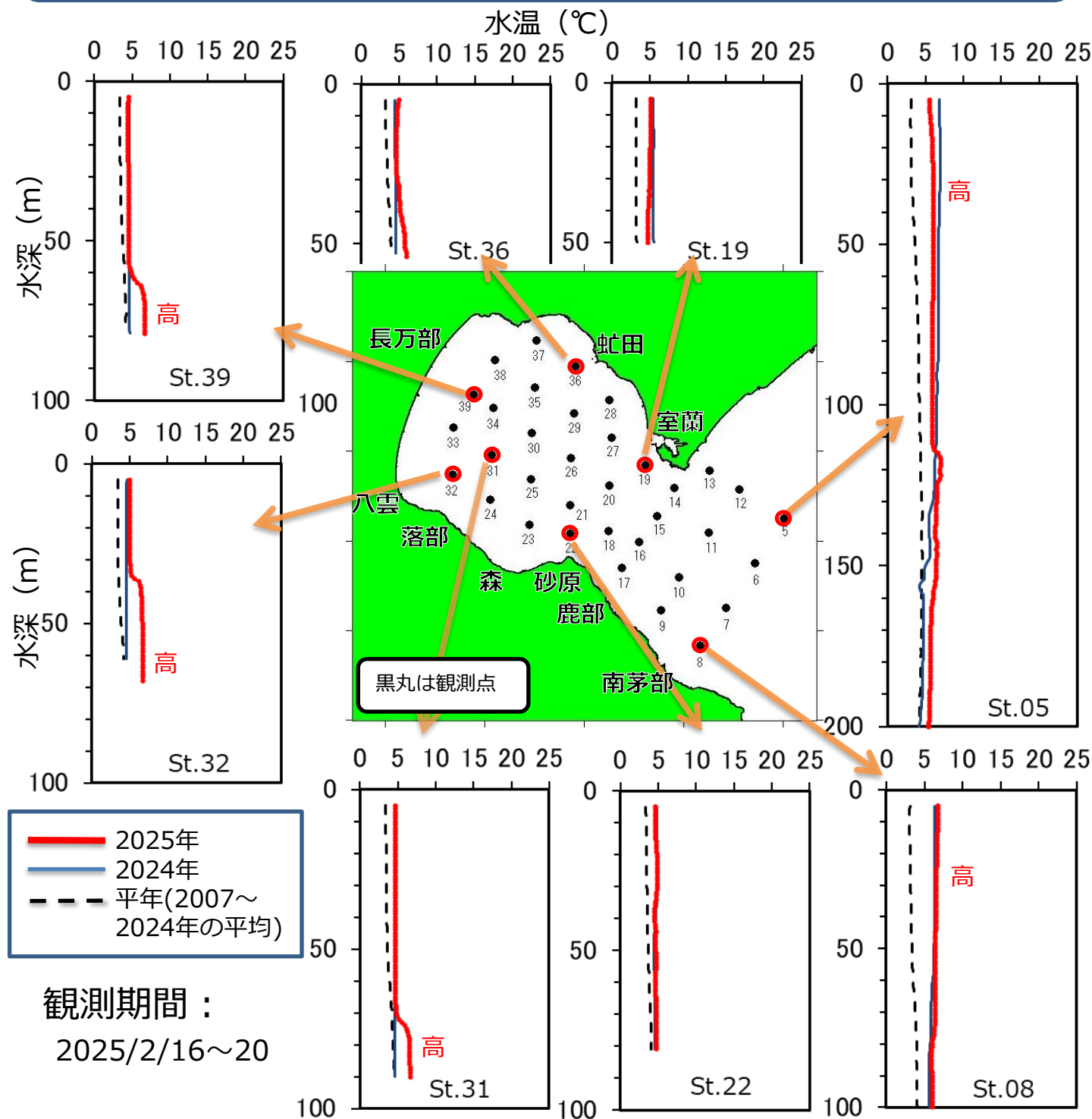


図1 噴火湾各地先の水温の鉛直分布

【水温、塩分、クロロフィルaの水平分布】

■水温・塩分

2025年の深度20mの水温は4～6℃台（図2上），塩分は33.3～33.5の範囲でした（図2中）。例年この2月に低温で低塩分な親潮系水（水温3℃以下，塩分33.3以下）が流入し始めますが，2025年は2024年同様に2月時点で湾内に親潮系水はほとんど流入していないとみられます。

■クロロフィルa※

深度20mにおけるクロロフィルaは湾内全域で3 μ g/L以上，胆振側の湾奥では最大9 μ g/Lとなっていました（図2下）。調査海域全体において，2023・2024年の同時期の値を上回っています。

※クロロフィルaは植物プランクトンに含まれる葉緑素で，養殖ホタテガイのエサの指標となります。

2023年2月15～16日

2024年2月16～18日

2025年2月16～20日

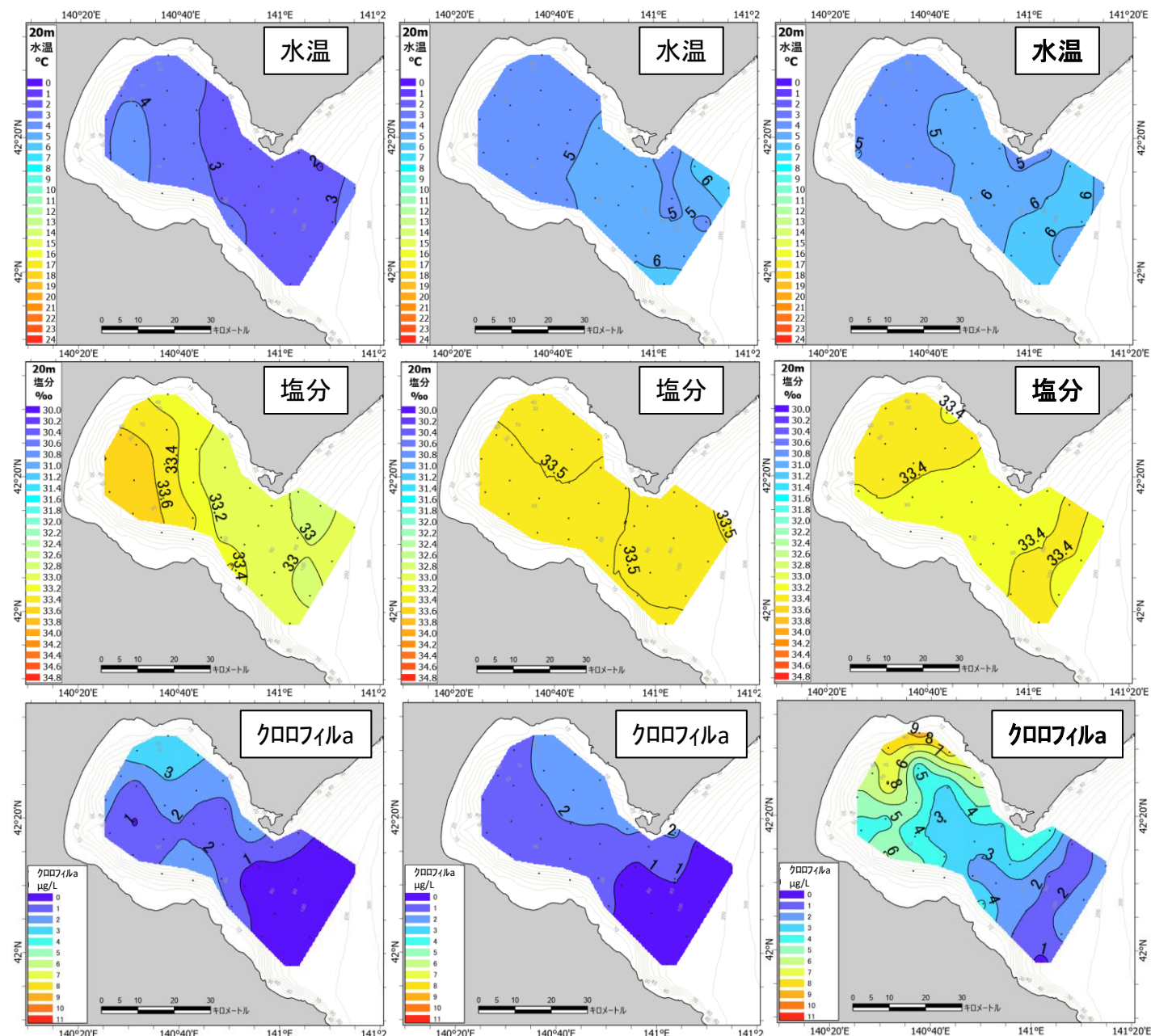
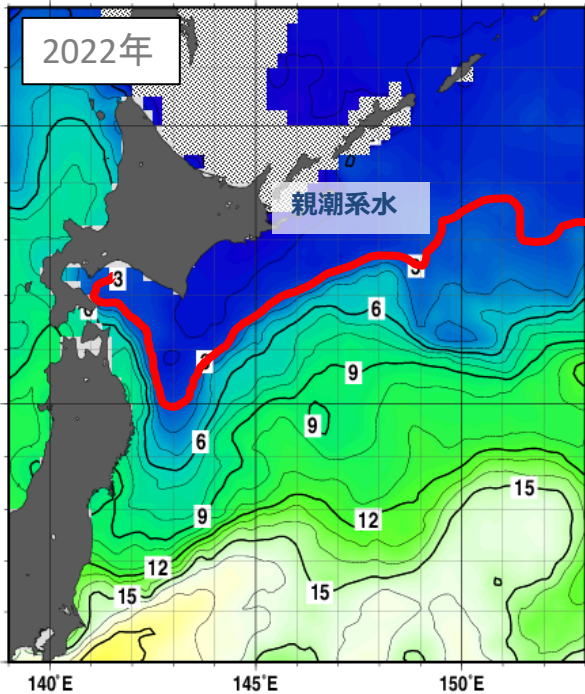


図2 深度20mにおける水温（上）と塩分（中）およびクロロフィルa（下）の水平分布
（左：2023年2月，中：2024年2月，右：2025年2月）

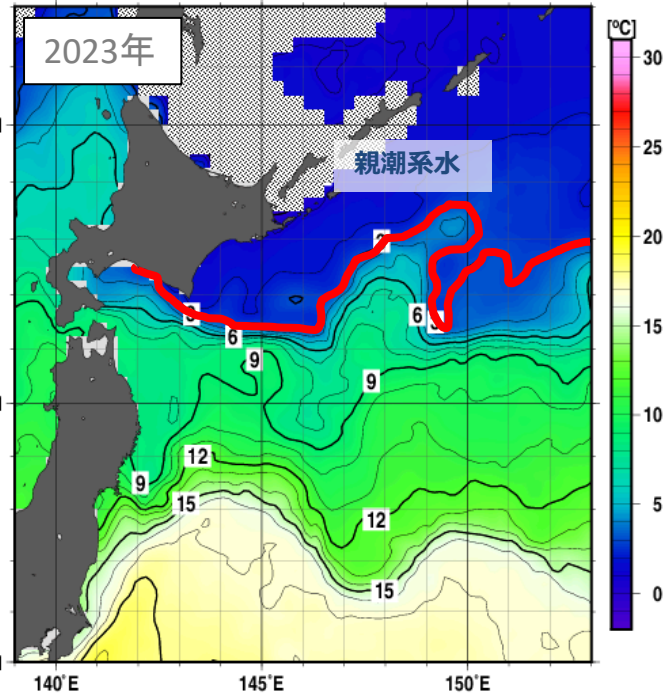
【北海道太平洋における親潮系水の分布状況】

親潮系水は例年冬から春にかけて道東太平洋から噴火湾に流入します。気象庁HPに掲載されている2月上旬の親潮水域における海面水温をみると、3℃以下の親潮系水は2025年は襟裳岬以東の沿岸にとどまっております（参考図右下）、2023年以前のように日高海域まで達していません。道東沿岸には昨年夏に発達した暖水塊が占めており、日高沖にも津軽暖流水の張り出しが見られるため、現時点では2024年と同様に噴火湾に親潮系水が流入しづらい状況と考えられます。

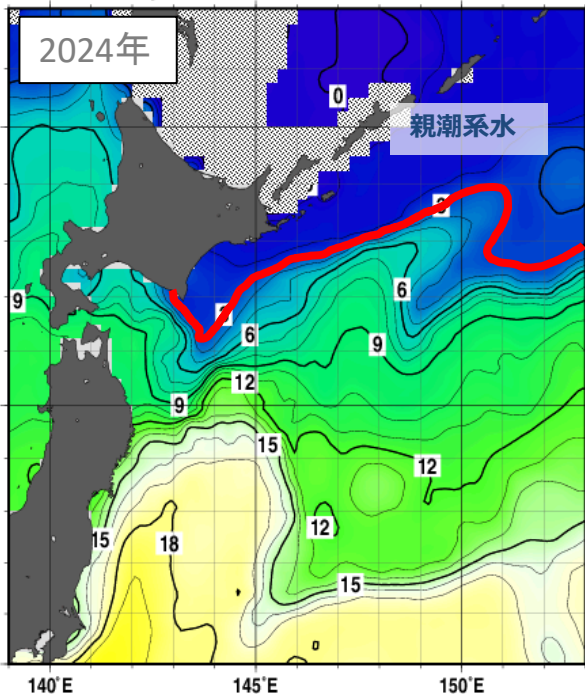
10-day mean SSTs for 01-10 Feb. 2022



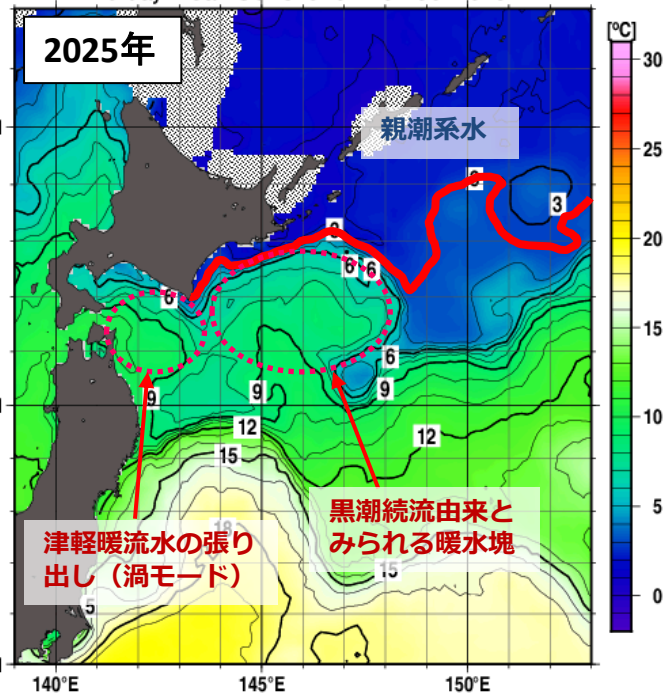
10-day mean SSTs for 01-10 Feb. 2023



10-day mean SSTs for 01-10 Feb. 2024



10-day mean SSTs for 01-10 Feb. 2025.



参考図 2月上旬の親潮水域における海面水温（気象庁旬平均海面水温を改変）

（左上：2022年，右上：2023年，左下：2024年，右下：2025年，3℃ラインを強調）